

水の思い出 ③⑧

会社のクラブに所属し、ただ写していたころから数えると40年近く写真を撮ってきた。写真のよしあしは自分にはよくわからない。日本中の素晴らしい風景を写しにでかける楽しみもあるだろうが、自分は地元の見過ごしてしまいそうな風景を撮るのが好きだった。見過ごしてしまうような何気ない景色の中に、ふるさとの美しさを見つけシャッターを切る。その写真を見た人が「ああ、太田にもこんなきれいな景色があるんだなあ」と思ってもらえたらいいといつも思っていた。

毎朝家の近くのパーティホールを散歩するのが日課で、何かいいポイントはないかと気をつけながら歩いている。秋は特に日に日に木々の色が変わっていく紅葉の競演が楽しみでもあり、それらを写しながら歩くのはとても気持ちいい。ホールの北側には黄色く色づいたイチョウの木が30本ほどあった。前日に降った雨で水たまりができ、鏡を置いたように映りだされたイチョウの木はなんともいえない広がりのある美しさを見せていた。自分はこんなにきれいな景色に囲まれていると気づかされ、うれしくなってシャッターを切った。



写真／石川 文男さん

(栄町・石川文男さん談)

春の香り漂う 歴史の道

～エコミュージアム 西山・佐竹寺コース～

常陸太田の歴史をひも解く時、必ず語られる多くの史跡がたたずんでいます。その時代に想いをはせ、ひとつひとつたどりながら森の小道をゆっくりと歩いてみませんか？足元に咲く小さな春が、季節の訪れを告げています。（菊池幾子、後藤百合子）



⑩ 稲村神社
長く美しい参道が印象的



神社入口の大ケヤキ



昔、この木によじ登って遊んだとか、下はガケです。ご用心!! (モミの大木)



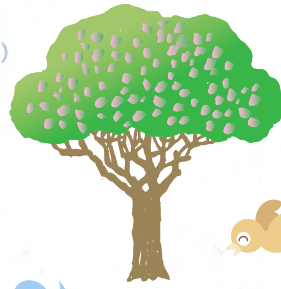
参道傍らの
ヤブコウジ
(別名：十両)



《主なサテライト》

■ 自然・環境分野

- ①ソメイヨシノ(西山公園)
- ②オオムラサキ
- ③ケヤキ
- ④カルガモ
- ⑤シラカシ林
- ⑥森林浴



■ 歴史・民俗分野

- ⑦馬坂城跡
- ⑧宝篋印塔
- ⑨佐竹寺
- ⑩稲村神社
- ⑪鶴ヶ池跡
- ⑫山寺水道
- ⑬清命水道
- ⑭旧久昌寺跡(天徳寺跡)
- ⑮永田円水墓碑
- ⑯三昧堂檀林跡(西山研修所)
- ⑰山寺晚鐘



- ⑱雪村の碑と横山大観
- ⑲上・下諏訪神社
- ⑳白馬寺
- ㉑久昌寺
- ㉒義公廟
- ㉓西山荘
- ㉔不老沢と晏如庵
- ㉕から傘御殿
- ㉖連華寺と晏茶羅寺



⑳ 白馬寺
屋根が美しい本堂



ミツマタ



⑦馬坂城址

佐竹寺発祥の地。南面に開けた高台にあって遠く島町・藤田町の田んぼまで見渡せます。





白馬寺山門

★からかさご殿西方展望所
(次ページ参照)



産業分野

- ②7 そば処「佐竹」
- ②8 アイガモ農法
- ②9 西山の里休憩所桃源
- ③0 ぶどう園



ホトケノザ



⑭ 旧久昌寺遺跡の碑
なだらかな丘の上。ハイキングの
お茶スポットにおすすめ



地域文化・生活福祉分野

- ① 総合福祉会館
- ② さくらまつり



スポーツ・健康分野

- ③ 山吹運動公園
- ④ 歴史の里遊歩道
- ⑤ 太田温泉



びっしりと貼られた千社札が
信仰の深さを物語ります



⑨ 佐竹寺
仁王様がお出迎え



★通玄洞・黄門様御成り道のトンネル

からかさご殿西方展望休憩所 開発顛末記

NPO法人グリーンピュア
環境部会 石塚 弘

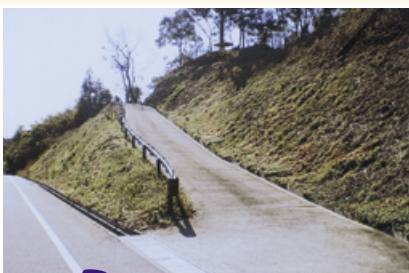


平成20年元旦、展望所からの初日の出
東海の海岸から登る風景

エコミュージアムマップのコースを自分たちのできる範囲でより魅力あるものにできないかと整備することとなった。マップより数か所の候補地を検討した結果、史跡が多いことから西山・佐竹寺コースにウォーキングの休憩所を設置してはという方向にまとまった。展望の良いポイントとしてからかさご殿が候補となったがその一帯は私有林のため、道路を挟んだ西側の小高い山はどうかと、営林署・行政との交渉の結果借用ができることとなった。いよいよ戦闘開始、悪戦苦闘の整備が開始となる。



入口・整備前



整備後



土手の雑草、小灌木の伐採片づけ・足場が悪く悪戦苦闘

工事着手の最初の難関は、道具。会員からカンパを募ってはみたが、購入資金には程遠い。個人所有の道具も集め、さらに(財)グリーンふるさと振興機構の支援を受けなんとか道具類の調達ができた。実際の工事に入ると、土手は灌木・雑草に覆われ、急傾斜地で足場が悪く難航の連続。特に難敵は汗だくの今年の夏の暑さ、虫、山の中の荒れ放題の地、松枯れの倒木！



整備前



整備後



これまで山仕事には全く縁のない人たちばかり、しかも人力がすべてで作業効率はなかなか上がらない。せっかく切り取った雑木や雑草は次の作業日にいくと元の黙阿弥の状態に戻っている。それでもいったん決めた整備、めげずに作業するしかない。



整備前



整備後



展望所にアンブレラ搬入、大変苦労した作業でした

99%の完成まで、丸一年の歳月を要した。その後、伐採した太めの雑木を輪切りにしてイス・テーブルを設置したが、その椅子を盗まれる被害まであった。手弁当で悪戦苦闘した1年だったが、完成の感慨も深く喜びはひとしお。2008年元旦、からかさご殿からみた初日の出は感動の一言であった。



展望所から見た東海原子力銀座及び大洗マリンタワーの風景

からかさ

傘ご殿の由来

傘ご殿は、西山荘の西方にある三角点、標高85mの小高い山です。むかし傘のような大きな赤松の木があったとされていますが、それでは、なぜご殿なのでしょう。

ここ、傘ご殿一帯は、最近までマツタケの名産地だったことをご存知でしょうか。江戸時代のころは、太田の商人が江戸へ塩付けにして売り出していたほどです。あるとき、それを見かねた黄門様は、もったいない事をするものだ、それは、地元で食したほうが香りもあって良いと言いました。はたして江戸へ送ったマツタケは大損をしたということです。（「西山遺事裏俚老雑話」）

さて、黄門様は、マツタケの季節になると西山荘のご女中、ご家来をともなってマツタケ狩りを楽しんだといわれています。そのシロ（キノコの群生）の案内役をしたのが旧久昌寺の日乗上人でした。マツタケ狩りの後、宴をひらくことになり、それならばいい所がありますよと、日乗上人が案内したのが、ながめの良い今の傘ご殿の付近なのです。

なにしろ、畳まで持ち上げ宴を開いたといえます。（「日乗上人日記」からのお話）周りには幕を張り、大きな日傘もひろげ、にわかご殿ができあがったのです。歴史の里遊歩道近くです。

（石川 誠）

百姓母さんの
たべもの日誌⑧

『食卓の春一番』

3月・4月は畑の野菜の乏しい時期で端境期と呼ばれる。冬に貯蔵しておく根菜類も底をつき、葉ものも気温の上昇で塔立ちを始める。そうするとほとんど菜の花ばかりの日が続いたり、しわくちやのジャガイモや残りの人参・大根などをあの手この手で料理してまかなうことになる。そんな変化に乏しい食卓に、春の香りを一番に運んでくれるのはフキノトウだ。立春を過ぎたころ、枯れ果てた畑の隅っこで落ち葉に埋もれながら浅緑色の顔をだしているのを見つけると、うれしくて早速摘み取って刻んで味噌汁にちらす。ほろ苦さと香りが早春を体に教えてくれる。隣のTさんが教えてくれたのは、フキノトウの豆腐ディップ。さっと湯がいたフキノトウを細かく切って、すり鉢ですり、そこに豆腐をいれてまた良くすり合わせ、最後に味噌で味つける。フキノトウの味わいが豆腐の甘

みでなめらかになって美味な一品。ごはんにつけてもよし、パンにつけてもいける不思議な味だ。

そんな春一番を楽しんでいると、今度はじいちゃんがナズナとヨモギの小さな新芽を取ってくる。湯がいて細かく刻み強めの塩でもんで丸めておく。それを炊き立てのごはんにちらすと緑が目に見え鮮やかな菜飯。ナズナとヨモギそれぞれの味わいが、やはり体に春を告げてくれる。こうして春一番のものを家族みんなで探して順々に食してゆく。

畑の野菜よりも野にあるもののほうに断然惹かれてしまうこの時期は、野草が最も愛おしく思える。でも春を越すとすっかり野草は草刈の敵となり、その生命力にうんざりするのだが…。ヨモギ団子や柏餅、今では売られているのが当たり前のも、自分で材料を摘み取って手作りできるのは春一番のお楽しみ。でもそんなお楽しみばかりやっていると、父ちゃんが片手に種袋もって追いかけてきそうなので、母ちゃんは野良の合間にヨモギ摘みに励むのだ。

（木の里農園 布施 美木）



古民家を

アトリエに

沼田 久雪さん

◆「上手に」よりも「好き」

沼田さんは中学生の時、先生に絵をほめられたのがきっかけで、絵を描くことをライフワークとしてきました。サラリーマン、休日には田んぼに入って農作業、そして絵と2足ならぬ3足のわらじを履いた生活を長く続けてきた沼田さん。忙しい時間を割いても没頭したい絵に向き合うのは必然的に夜となるのですが、問題は光。色は光のたまもの、太陽の光あふれる日中と違い、夜キャンパスに向かうときの悩みの種は光でした。

また、油絵を描くときに使う絵の具の匂いのため、家族が集う居間近くで絵を描くには戸惑いもあったのです。退職を機に絵を描く時間が増えること、そして描きあげた作品の保存のためにも、住まいを増築してアトリエにしようと思っていたところ、出会った建築士さんのすすめで農機

具をしまっておいた古民家・乾燥場をアトリエとして直すことにしたそうです。



- ①改装後
- ②改装前
- ③アトリエ
- ④ギャラリー
- ⑤ロフトから

◆ライフワーク・農業・趣味・地域

「立派な蔵だったら手をつけられなかったでしょう」。農業を営んでおられたお父さんがいつか改築しようとしていた古民家・乾燥場、そこをアトリエ兼農機具倉庫に直せたのは「人の用途に沿った簡素な作りだったこと」が幸いしていたそうです。改装なったアトリエはもうひとつの役目も



持っています。「長年の絵画の仲間と集い語る場として利用してもらえたら」「作品の発表の場としても使えるように」とアトリエを広く地域でも使ってもらえるようオープンにしたのです。

◆古いものを今に活かす

ブームのようなリフォームにおいて、最も優先するのは「そこを使いたい」というモチベーション」とは設計を担当した上岡正芳さん。

「古いものは、ただ『残す』だけでは過去にとどまったまま。今も有意義に使われ、改装によって今と未来の暮らしが向上すること、それが『今に活かす』ということだと思います」。

様々な「用」のため、古いものを今に活かそうとする人の思いが、アトリエに新しい光をもたらしました。



居合

日本武士道の威武として、古来より今日まで受け継がれてきた居合道（日本刀で行う）に魅せられ活動している人達がおります。

道場は松平町石井穀氏宅タバコ乾燥蔵を改造、道場名を正気館と命名、毎週稽古に励み、その技を磨いています。

現在の居合道は、精神修業を主とし、又生涯スポーツとしても多くの愛好家が活躍しています。市民の皆様で居合道に感心をお持ちの方、稽古を公開しているので、一度見学してはいかがでしょうか。入会の募集も随時行っています。

(石塚 弘)

指導者 全日本剣道連盟居合道八段 谷津 隆夫
外師範代 数名

稽古日 毎週月曜日 午後5時～7時30分

問い合わせ先

事務局 岩間 正典

TEL 0294-85-0786

代表者 石田 一男

TEL 72-6011



思い出を残す ～つながりをつくる 場への再生～

伊村 智安さん



鯨ヶ丘と呼ばれた地区に多く残されていた蔵も年毎に少なくなりました。取り壊される運命にあったある蔵、幼いころ近くで育った伊村さんは、蔵が失われることが忍びなく、私財をかけて買い取り復元をしました。



そして、見事によみがえった蔵は、地域のためにとイベントに利用されるようになったのです。昨年の「常陸



太田秋まつり」期間中も、街角美術館として利用されたこの蔵はそのような個人の厚い思いで地域に公開されています。外観は地域の景観の象徴として、蔵内は人のつながりの再生の場として、古きものを今に活かす新しい常陸太田の流れを作り出しているようです。

自宅などをの一部を一般に公開し、地域の人の交流の場として使う動きが多くなっているのは、プライバシーを尊重するあまり家が地域に対して扉を閉ざしてきた今までの反省から来るものなののでしょうか。現代の「縁側」ともいえるこのような場所がこれからも増え続けるような気がします。

(塩原慶子)

◆幼い時に見た風景

子供のころに見てきた景色がある日突然跡形もなく消えてしまい、失われてしまうとそこに何があったのかさえ思い出せなくなる、そんな経験をお持ちの方も多いことでしょう。景色とともに文化や思い出まで消えるような寂しさを感じる人が多いからか、街全体の景観のあり方を考える動きが日本各地で聞かれるようになってきました。

～スロータウン鯨ヶ丘

春まつり～



会場 鯨が丘商店会(東一町～東三町)
日時 3月22日(土)
(10:00～15:00は歩行者天国)
問合せ 常陸太田商工会 TEL72-5533

○鯨ヶ丘七坂物語(教育委員会文化課共催)

鯨ヶ丘周辺の7つの坂を散策するスタンプラリー。坂を上るとひらける風景があなたを懐かしい時間にいざないます。



○太田地酒・新そばを味わう会

(まいづる塾他主催)

○菓子博覧会

市内の菓子店が一同に集合！
ふるさとの味を食べくらべ！

○「私の好きな風景」写生会(美術協会共催)

思い出の景色を春色の絵の中に残してみませんか。



ふれあいの場が新しく
オープンしますよ！

- ★はなみずぎ(そば茶屋)
- ★花てまり
(和装リサイクルショップ)
- ★cafe結+1
(コミュニティカフェ)



常陸太田秋まつりで好評だったマップが拡大版で登場します。配布は市役所・支所などの他、商店会各店舗にて

リレー
エッセイ「思い出の本」『もしもし おかあさん』 ～38～ (大里町 藤間 早苗)

この本は、本屋さんで見つけ、まだ一才だったわが子のために購入した。店先で、バラバラめくると、猫たちの生き生きとした表情が描かれていて、あたたかい感じがした。

家に戻って読んでみると、自分の産んだ子猫が大きくなって、よその家にもらわれていく、お母さん猫の悲しい気持ちが書かれていた。でも、悲しんでいるお母さん猫に、子猫から電話がかかってくる。夢の中だったけど、「もしもしお母さん」って。三匹とも元気でくらしていることが分かったお母さん猫は、元気を取り戻す。

この本は、購入してからずっと、子供たちにせがまれて、繰り返し読んできた。その度に涙が出そうになる私をよそに、子供たちは平気な顔で聞いていた。まだ、子猫を思う親猫の気持ちまでは理解不可能だったかも。

「思い出の本」の原稿依頼が来て、久しぶりに子供たちに読んで聞かせた。二人とも、話の途中で鼻水をすすりながら聞いていた。子供たちがどう感じたかは聞いていないが、なんとなく、子供たちの心の成長を感じることができた。

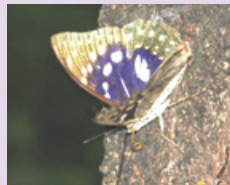
本はすごい！子供の心の成長を感じることができるなんて。子供たちに本を読んで聞かせていると、子供たちをすごく近くに感じる。最近、子供たちが大きくなって、抱っこを嫌がるようになってきたが、読み聞かせの時間は、まだ大好きなようだ。この読み聞かせの時間をずっと続けていきたいと思う。今度は私が、子供たちに読んでもらおうかな。(次回は 久米町 後藤 久美子さん)



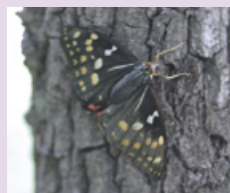
ほつ
とひといき

オオムラサキ

オオムラサキは、とてもがっしりとした体を持ち、日本の蝶の中でも体重では一番に入る蝶です。羽の色も紫色が鮮やかで美しく、日本を代表するチョウとして「国蝶」に選定されています。国内では北海道から九州まで生息し、常陸太田市内では、6月下旬から8月に成虫を見ることができます。しかし、実際の姿を見るには少しコツがいります。クヌギなどの樹液にしか来ないため、出会うには大きなクヌギがある雑木林に行かなければなりません。最近そのような雑木林が減ってきたため、全国各地で絶滅が心配される所も出て国や茨城県の絶滅危惧種に指定されています。しかし、市内ではまだ、元気に生息しており、瑞龍町、稲木町、西山公園などで多く見ることができます。



樹液にきたオオムラサキのオス



オオムラサキのメス
オスより一回り大きい
が紫色はない

(写真・文 佐々木 泰弘)

ちおつとひといき 『Gateau Daisy ガトーデイズ』



営業時間: 11:00~17:00
cafe' はラストオーダー
16:00まで
定休日: 日曜、月曜、祝日
tel/fax 0294-76-1933
常陸太田市大里町3896-1

小さい頃からお菓子作りが何よりも好きだったオーナーの作ったお店。独学で学んだお菓子は日々ショーケースに何種類も並べられ、みなそれぞれ美味しいです。お気に入りの席でティータイムを楽しんでみてはいかがでしょうか。

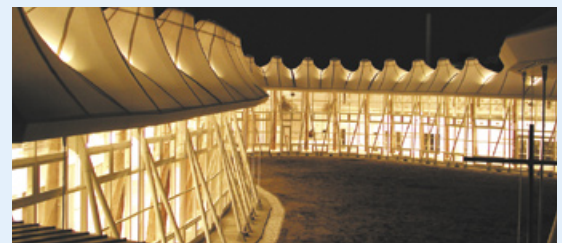
★★★★★ cafe ★★★★★

ケーキセット…650円 コーヒー or 紅茶
ジュース……………315円

※ケーキはテイクアウトできます。

エコキャンドルナイト ～地球よ ありがとう～

昨年、(社)常陸太田青年会議所と常陸太田市が行った市民討論会において、地球温暖化など環境を考える取り組みが提案されました。その一つとしてキャンドルナイトを実施します。使用するキャンドル(ロウソク)は廃油を再利用したもので、小学生など約200名の市民の方々によって作られました。電気を消し、キャンドルの灯りの中、地球の未来について静かに考える時間を過ごしてみませんか。
地元の食材を使った野菜スープをご用意します(200食程度)。マイカップ・マイスプーンをお持ちのうえご参加ください。



と き 4月12日(土) 午後5時～7時
(雨天の場合も行います)
ところ 常陸太田市総合福祉会館中庭
内 容 キャンドル灯火・ハンドベル及びサックス演奏
主 催 (社)常陸太田青年会議所・常陸太田市
問合せ 市民協働推進課 市民活動係
TEL72-3111(内線217・218)